

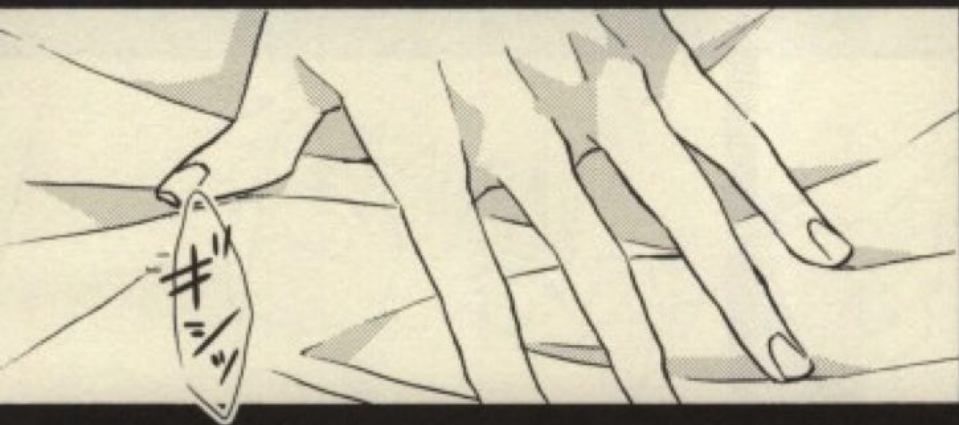
融点 は

R18



午前 2時

それは
ある晩突然
やってきた







は

ク
ミ
ツ



そうして

誘われるままに
その身体を抱いた



抵抗らしい
抵抗は無かったが

サスケは喘ぐ以外
一言も言葉を
発しなかった

おせえぞ

今回の任務に
ついてだ

目を通しとけ

あれ？

いつもと
変わんねー

昨夜は
あんなに…

他の奴らは
先に向かつてる

わ

わり…

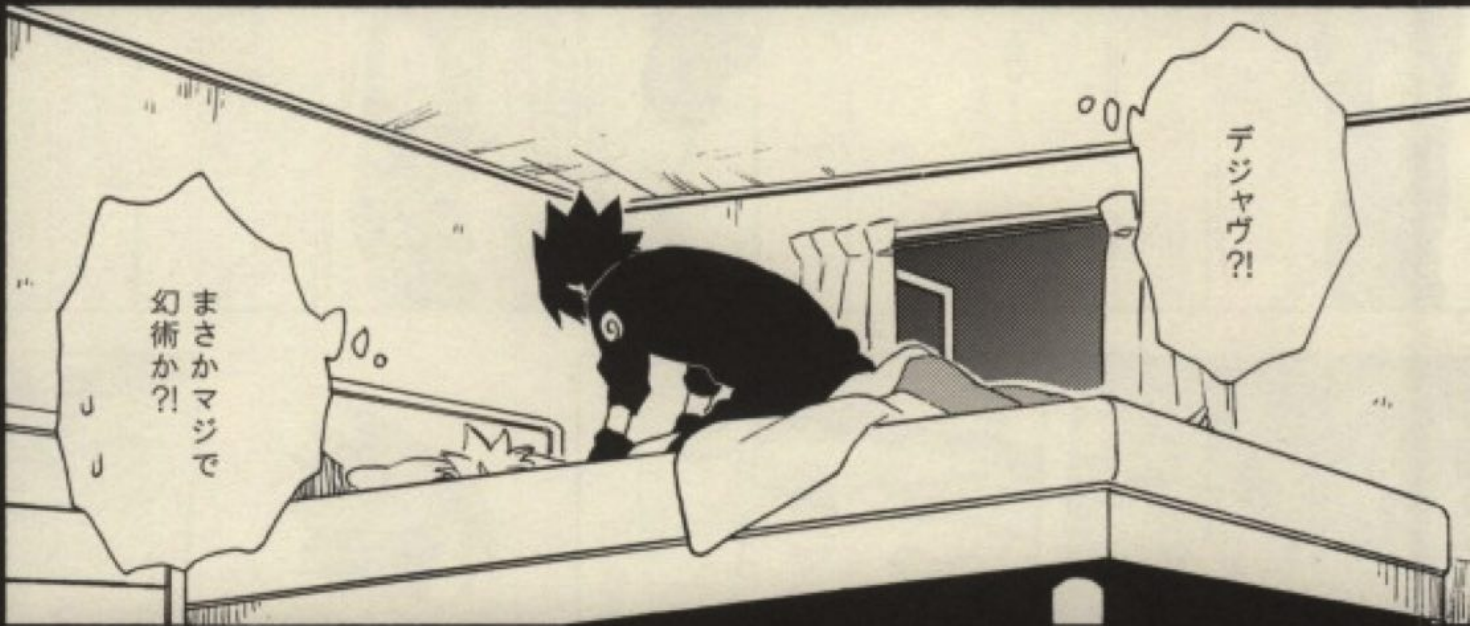




あ…
れ?



なんて



まさかマジで
幻術か?!

デジャヴ?!





それ
さい
ケんで
だよな

いっ...

これは幻術だ



お前が
かけてくれた
幻術だ...!!

ギョウ

その後も
サスケは夜になると
度々オレの部屋へ
やつて来た

日にちは不定期

時間は決まって
午前二時

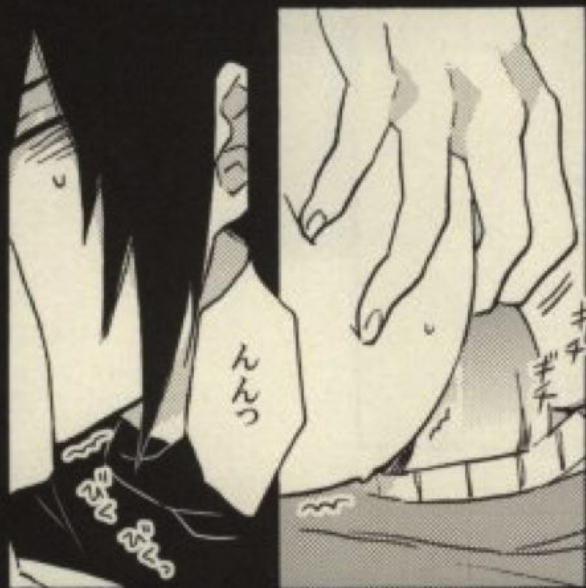
午前二時
オレは今夜も
幻術にかかる



何も聞かない

言葉は
交わさない

そうすればオレ達は幻術にかかっていられた



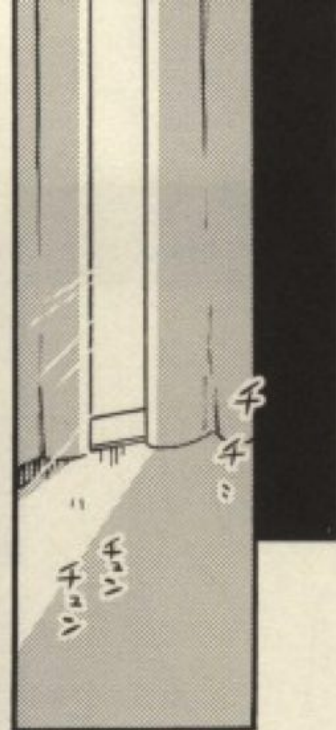
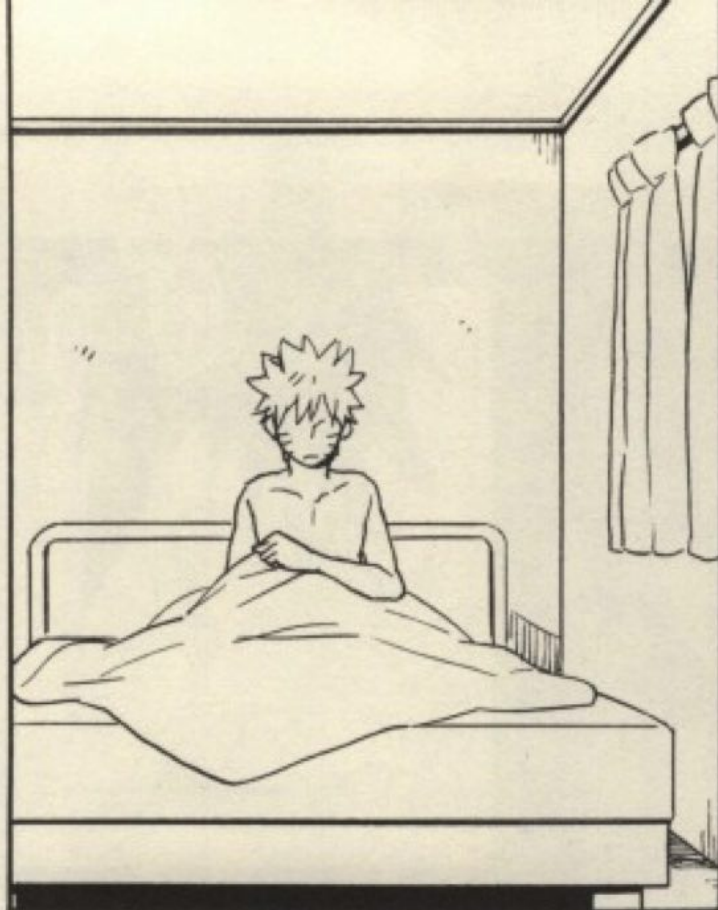
あとはひたすら
求め合うだけ



朝になれば
すべて元通り



それでもいいと
始めは思っていた



冷てえ



幻術を解くのは
簡単だ

始めから
幻術なんかじゃ
ねーんだからな

問題はその後だ

現実に『戻る』のか？
それとも『なる』のか？

もちろん
後者だつてばよ



サスケ



お前の部屋に
行くからな

今夜

二時

?!

テメ…ッ



おはよ

ちゅっ



全部現実にするために
お前を抱きに行く



無かったことになんて
させねえから

逃げんなよ
サスケちゃん？

そう言うど

サスケはようやく
声を立てて
笑ったのだった



融点は午前2時

Naruto*Sasuke fanbook #07
ROKKA 2013 Spring